



特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド 活動報告集 2015



2016.5.31 発行

認定特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド

〒701-1213 岡山市北区西辛川 895-7-101

Tel & Fax: 086-284-9700 Email hginfo@hofg.org

<http://www.hofg.org/> , <https://www.facebook.com/heartsofgold.japan>

【目 的】

被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困者層の人々に対して、スポーツや教育、その他の活動を通じて自立につながる事業を行い、苦境に立ち向かう人々や子ども達が人生にチャレンジするための「希望と勇気」を持つことが出来る機会創造に寄与することを目的としている。特に、途上国の人々が自分達のかかえる問題を自らの力で解決していけることを目指し、彼らの視点に立って、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

1 事業実施の方針

被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困層の人々に対して、スポーツや教育、その他の活動を通じて自立につながる事業を行い、苦境に立ち向かう人々や子ども達が人生にチャレンジするための「希望と勇気」を持つことが出来る機会創造に寄与することを目的とする。特に、途上国の人々が自分達のかかえる問題を自らの力で解決していけることを目指し、彼らの視点に立って、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業分類	事業名	事業内容	実施日	実施場所
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	・アンコールワット国際ハーフマラソン後援 ・アンコールウォーキング大会	・第 20 回を迎えた今大会は、75 の国と地域から、8,539 人が参加。 ・遺跡内で現地の子ども達とウォーキング大会を開催。(NCCC の子ども達がデザインした T シャツを着て、エイズ予防の広報活動を実施)	12/6 12/4	カンボジア (シェムリアップ)
	・スポーツイベント ・チャリティイベント	・国内のチャリティマラソン・スポーツイベントなどの実施・協力(12 回) ・チャリティイベントの主催・後援・協力など(6 回)	4 月～ 3 月	日本
スポーツを通じた開発支援事業	・小学校体育科教育振興 (JICA 草の根技術協力事業) ・小学校体育普及 (岡山市(CLAIR)補助金事業) ・スポーツ施設設置・建築	・カンボジア小学校体育科教育普及第 3 フェーズを実施。カンボジア教育省担当官 12 名の増員・育成。9 州でワークショップ・モニタリングを実施 ・カンボジア教育省主導の運動会 3 州 7 校で実施及び指導技術の確立 ・カンボジア教育省担当官と上長 7 名を招聘し研修 ・体育拠点小学校に体育施設支援(鉄棒 7 校、マット 8 校、平均台 1 校)	4 月～ 3 月 7 月～ 2 月 4 月～ 3 月	カンボジア 日本
	・中学校体育科教育支援 (SFT 再委託事業)	・小・中の一貫した体育科教育の確立を目指した活動 ①指導要領記載要項ワークショップ、②シンガポール・タイ調査、③バタンハン州指導要領ワークショップ、④技術委員会による指導要領案執筆開始	11 月～ 3 月	
障がい者支援事業	・障がい者スポーツの振興 ・日本の大会への招聘	・障がい者スポーツ振興支援(CDAF トレーニング支援、オリンピック・パリー・エジュケーション・プログラム(OVEP)による筑波大学学生受入れ等) ・障がい者ランナーのかすみがうらマラソンへの招聘	4 月～ 3 月	カンボジア 日本
被災地、紛争地における自立・復興支援事業	・日本語教育	・BBU 大学内に日本語講座開設(10 月開講、3 月末現在 3 クラス) ・チェイ小学校での日本語教室再開(11 月開講) ・現地ステイター訪問者の受入れと交流	4 月～ 3 月	カンボジア (シェムリアップ)
	・養護施設(NCCC)運営 ・サラーチガニ開講	・ハート・ヘアレント(里親制度)で孤児や貧困児童を受入れ養育する ・地域住民(お母さん)への保健・栄養・料理教室開催		
	・子どもの健康増進・疾病予防	・2 ヶ所(クラウ小学校、プノサンパブ小学校)に浄水器を設置。子ども達にきれいな水を提供できるようになり、疾病予防、健康増進に寄与 ・日本からの歯科医による虫歯検診・予防教育の実施(チェイ小全員)		(クラチェ、バタンハン)
	・自立のための職業訓練 ・美容ワークショップの開催	・NCCC 出身のサオピアは、「専門学校岡山ビューティモード」に留学。 3 月卒業、美容師免許(国家資格)を取得 ・シェムリアップで美容技術向上のためのワークショップを実施(5 回)		(シェムリアップ)
	・3.11 子ども animo プロジェクト	・野蒜小学校では、学校から要望された①全校遠足バス代②QU 検査③卒業アルバムなどを継続支援。渡波小学校は木村先生と交流		宮城県 福島県
国際理解・交流事業	・ステイター ・青少年交流	・国際協力の現場見学とボランティア体験や交流により貧困・環境・平和・開発などについて理解を深める。 ・企画ツアーを実施(ウォーキング大会や運動会など活動現場訪問) ・学生や団体のステイターを受入れ。(中学・高校・大学・教員団体など 37 回受入れ)	4 月～ 3 月	カンボジア
	・サービスラーニング(学校教育支援) 持続可能な開発のための教育/ 岡山 ESD 推進協議会参加 スーパーグローバルハイスクール協力 ・研修・啓発・講演会 ・インターン受入れ(国内外)	・学校や団体に講師を派遣(17 回) ・スカイプや文通、メールによる現地との交流・情報提供。国際協力・交流などの実践的学習活動の場を学校に提供。 ・国際協力シンポジウム、パネル展、講演会などを開催、講師派遣(27 回) ・インターンの受入れ(外務省 NGO インターンプログラム)	4 月～ 3 月	日本 カンボジア
その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	・出版・調査・研究など ・通信・ネット・機関誌での啓発活動	・調査研究、シンポジウムや会議などへの参加。調査研究の受入れ ・ホームページ、フェイスブックでの情報発信 ・「HG 通信」の発行(活動報告機関誌/年 2 回発行)	4 月～ 3 月	日本 カンボジア

(2) その他の事業

定款の事業名	概要	事業内容	実施日	実施場所
パザーその他物品販売事業	チャリティパザーの実施やグッズ販売・パネル展示	T シャツ、キャップ、書籍などの販売やパネル展示を通して活動支援金を広く集める。併せて、活動内容の広報を行うとともに、国内での活動支援者層の拡大を図る。各地区で開催されるイベントにも参加。	随時	日本

事業名	アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)後援
事業分類	国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業
活動概要 大会趣旨: ・世界に向かって「非人道的な対人地雷の使用禁止」を訴える。 ・大会エントリー費用は義手義足支援と、地雷被災者の社会復帰・自立を支援するとともに、青少年エイズ予防支援活動などに使用。 ・健常者だけでなく、障がい者も、共に走ることを通じて、勇気と希望を与える。 ・カンボジアに対する世界各国からの支援に対し、感謝と元気なカンボジアをアピールする。	
テーマ: “Building a better future – Aid for children and disabled people in Cambodia” 主催: カンボジア観光省、カンボジアオリンピック委員会(NOCC)、カンボジア陸上競技連盟(KAAF) 運営: アンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会、Cambodia Events Organizer Co., Ltd.(CE) ハート・オブ・ゴールドは 後援 。	
日時: 2015 年 12 月 6 日(日) 午前 6 時 30 分スタート 種目: ハーフマラソン(男女/車椅子男女)、10km ロードレース(男女/義足男女/義手男女)、3km ファン・ラン(オープン) コース: アンコール遺跡周回特設コース(AIMS 公認) プレ・イベント: ・【コースチェック(12/5)】運営:CE ・【前夜祭(12/5)】運営:観光省、CE	
参加者: 8,539 人、75 の国と地域 ※参加者過去最高。 チャリティ: ・本年度:US\$26,400(カンボジア赤十字、カンボジア・トラスト、ハンディキャップ・インターナショナル、カンボジア障がい者陸連、アンコール小児病院、カンター・ボパー小児病院、HG) ・第 1 回大会(1996)から第 19 回大会(2014)までの合計寄付金額:US\$339,844。 ・本第 20 回大会のハート・オブ・ゴールドへの寄付金は合計 US\$8,400(内訳:NCCC に US\$2,000、障がい者支援に US\$2,400、体育教育に US\$2,000、自立支援に US\$2,000)	
特記事項: ● 有森代表は 1996 年の第 1 回大会から参加し、HGは 1998 年から特別運営協力を行ってきた。第 18 回大会を迎えた 2013 年にカンボジア側に広報、準備、資金調達、会計、運営を全面移譲した。本大会はカンボジア人の手による 3 回目の大会となり、マラソンコース、給水、ボランティア、警備等を含め、問題なく運営され、有森代表もカンボジア側の運営技術の向上を心から喜んでいた。 ● 本第 20 回大会には、北京パラリンピックの走り幅跳びの銀メダリスト、山本篤選手が 10km ロードレースに参加し、義足ランナーの部で優勝した。 ● 日本から HG のスタディツアーとして有森代表をはじめ、54 名が 12 月 3 日からカンボジアを訪れ、歓迎パーティ、エイズ撲滅の願いを込めたウォーキングイベント、NCCC(ニュー・チャイルド・ケア・センター)訪問、ランニングクリニックや小学校体育科教育普及事業の一貫として実施しているワットチョーク小学校での運動会視察、アンコールワット国際ハーフマラソン等に 5 日間・6 日間コースに分かれて参加した。 ● 有森賞(かすみがうらマラソンへの招待、2016/4/17 開催):21km 男子 11 位 Phan Sopheak と義足 10km 男子 2 位 Chan Samay の 2 名が選考された。 ● 有森代表は、AWHM20 回大会の本年、モニサラポン・マハ・セレイワット勲章を受章した。	
支援・協力団体 吹田中ノ島チャリティラン、かすみがうらマラソン、(株)RIGHTS、JTB 中国四国岡山支店、タイヨー薬局、兵庫県高校陸上合宿有志	



事業名	カンボジア王国 小学校体育科教育普及支援事業（JICA 草の根技術協力事業）
事業分類	スポーツを通じた開発支援事業
協働団体	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省
活動目的 カンボジア教育・青年・スポーツ省、JICA、筑波大学と連携を図り、体育科教育授業の全国的な普及に向けて、2006 年から 2009 年の第 1 フェーズでは、指導要領の新訂、指導書案の作成を実施、2009 年から 2012 年の第 2 フェーズでは、5 州 10 小学校及び 5 教員養成校を拠点校として、基本的な普及基盤を確立してきた。 2013 年 4 月から実施している第 3 フェーズでは、「カンボジアの小学校体育科教育において、教育・青年・スポーツ省 学校体育スポーツ局が自立的に普及できる体制が確立される」ことを事業目標とし、省担当官の増員及び育成、15 州（バタンバン州、シェムリアップ州、シアヌークビル州、クラチェ州、スヴァイリエン州、バンテアイミンチェイ州、コンポンチュナン州、プレアヴィヒア州、コンポントム州、カンボット州、コッコン州、ラタナキリ州、ストウントレン州、プレイヴェン州、タケオ州）での体育科教育普及、そして教育・青年・スポーツ省が独自に事業成果を継続できる体制作りのための活動を継続している。	
活動概要 - JICA 草の根技術協力事業によって以下の活動を実施した。 1) 第 4 地域（バタンバン地域）：バタンバン州、バンテアイミンチェイ州、コンポンチュナン州での新体育普及活動（①RT 育成研修、②RT によるバンテアイミンチェイ州、コンポンチュナン州での体育ワークショップ、③バンテアイミンチェイ州、コンポンチュナン州での体育授業モニタリング（3 回）、④バンテアイミンチェイ州、コンポンチュナン州での公開授業）（2015 年 4 月～7 月） 2) 第 5 地域（シェムリアップ地域）：シェムリアップ州、コンポントム州、プレアヴィヒア州での新体育普及活動（①シェムリアップ州において地域トレーナー選出、②コンポントム州、プレアヴィヒア州においての拠点校選出、③RT 育成研修、④RT によるコンポントム州、プレアヴィヒア州での体育ワークショップ、⑤コンポントム州、プレアヴィヒア州での体育授業モニタリング（3 回）、⑥コンポントム州、プレアヴィヒア州での公開授業）（2015 年 7 月～2016 年 1 月） 3) 第 1 地域（スヴァイリエン地域）：スヴァイリエン州、タケオ州、プレイヴェン州の拠点校、教員養成校を対象とした最終評価を実施（2016 年 3 月） 4) NT、15 州の州教育局、13 州の教員養成校の校長、教員を対象としたコンサルテーション・ミーティングを開催（2015 年 10 月） 5) NT が 2 人 1 組となり、対象 8 州の年間モニタリング（2015 年 4 月～2016 年 3 月） 6) リズム運動をキャラクター化し、国営放送で放映（月～金、2015 年 7 月から） 7) カンボジア教育省主催の年次教育総会にて、事業進捗報告及び提言（2016 年 3 月） - JICA 草の根技術協力事業以外にも以下の体育科教育活動を実施した。 1) コンポントム州、プレアヴィヒア州の拠点校への鉄棒設置、マット配布 2) バタンバン州 4 小学校、スヴァイリエン州 2 小学校及びシェムリアップ州 1 小学校において教育省主導の運動会の開催	
次年度の実施計画 2016 年度は、JICA 草の根技術協力事業において、第 2（クラチェ地域）、第 3（シアヌークビル地域）、第 4（バタンバン地域）、第 5（シェムリアップ地域）地域での評価活動を実施する。 - NT の専門家への認定、サブ NT の NT への認定、研究指定校の認定、授業の評価等、筑波大学と連携をし、各種評価表を作成していく。 - 昨年度、教育・青年・スポーツ省が指導書を印刷し、全国の小学校に配布した。体育科教育の更なる普及のために教育省大臣を始めとしたキーパーソンへの働きかけを継続していく。 - 当会が地方出張の際、NT の年間モニタリングの際または青年海外協力隊との連携で体育をさらに普及する。	
支援・協力団体 （独法）国際協力機構/JICA、筑波大学、親子チャリティーマラソン in おもちゃ王国実行委員会、シーガルズ、エイコースポーツ、チャリティディナー実行委員会、協力小・中・高校、他	



コンポンチュナン州公開授業



コンポントム州体力測定



コンサルテーション・ミーティング

事業名	カンボジア王国 小学校体育科教育普及支援事業(運動会実施支援)
事業分類	スポーツを通じた開発支援事業
協働団体	岡山市、岡山大学、岡山県、カンボジア王国教育・青年・スポーツ省

活動概要

【対象校】 **継続** シェムリアップ州ワット・チョーク小(12/6)、スヴァイエン州ピートゥヌー小(12/17)/プレア・シアヌーク小(12/18)
新規 バッタンハン州(12/25) アンロンヘル小(児童:1,201、教員:42)/ミタピアップ小(児童:629、教員:28)
(12/26) プノンサンパプ小(児童:720、教員:36)/チアシム小(児童:1,487、教員:58)

【内容】 カンボジアでの小学校体育振興事業の成果を図るため、また「スポーツ文化の楽しさをみんなで体験する」ことを目標に、新しい体育の授業を実施している拠点校において、行政と学校が主体となった運動会実施の支援3年目。今年度の事業目的は、過去2年に実施支援した小学校の自主的な継続実施と、新規4校での実施と同国教育・青年スポーツ省体育教育の担当行政官であるナショナルトレーナー(NT)の指導力向上とした。

具体的には、(1)ワークショップ、(2)研修、(3)運動会実施の3つの活動を行った。

8月の新規4校のワークショップは、教員等に運動会のイメージを持ってもらい、実際に自校のグラウンドの計測と用具確認、プログラム作成や実技練習、学校毎の成果発表を行うなど、多様な内容で実用性があり効果的であった。12月開催の意思確認もできた。9月はNTと学校体育スポーツ局長を岡山に招聘。岡山市立西大寺小学校、倉敷市立中島小学校の2校で、事前準備を含めた運動会見学と、岡山大学でのマニュアル作成のためのワークショップを実施。

現地運動会は12月に開催。継続実施の3校へは、NTによるモニタリングや事前ワークショップの開催により、規模を縮小しながらも学校教職員のみで準備をす



め、また、児童用の水などはPTAや他NGOからの支援を取り付けて独自予算で開催した。競技内容には工夫がみられ、用具の管理や出し入れを教員とともに児童も担当していた。新規4校については、開催1週間前より現地支援を開始し、NT、サブNT、HGスタッフ、派遣専門家3名と学生ボランティア等がそれぞれの学校に分かれた。

拠点校ではRT(体育主任)が主体的に活動し、他の教員も次第に積極的に関わるようになっていった。NTが岡山の小学校の運動会で見た「ナイスキャッチ」という競技が取り入れられている学校では、道具を一から作ったり、より多くの児童が参加できるようにアレンジしたりしていた。同様に応援合戦も、児童がMCを行ったりパフォーマンスをしたりする学校もあり、NTが研修で得たものが伝達されていた。また、各校とも、保護者を多く招待し、参加できる種目も設けられていた。大声で応援したり、飛び跳ねながら自分の子どもを応援したり、勝敗に一喜一憂する保護者がとても多かった。ある学校では、プログラムの途中の時点で、最後に全員でダンスをしようという提案が保護者からあがり、それに応じた。グラウンドに何重もの大きな輪ができ、皆で長い時間踊った。競技をする児童だけでなく、教員、保護者等すべての人が楽しめる運動会が実現した。



また、NT独自でワークショップを実施し、運動会を2州4校で行うなど、現地の取り組みが活発となっている。事業全体をとおして、NT、サブNTは、過去2年間で実施した運動会での経験をもとに、それぞれ課題や目標をもって活動をしているようである。

支援・協力団体

自治体国際化協会(CLAIR)「平成27年度自治体国際協力促進事業(モデル事業)」岡山市と連携、岡山市立西大寺小学校、倉敷市立中島小学校、山陽新聞

事業名	カンボジア王国 中学校体育科教育支援事業（文部科学省戦略的二国間スポーツ国際貢献事業〈スポーツ・フォー・トゥモロー:SFT プログラム〉）
事業分類	スポーツを通じた開発支援事業
協働団体	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省
活動目的 当会はカンボジア教育・青年・スポーツ省と協力して、2006 年から小学校体育科教育の基本的な普及基盤を確立するための活動を継続しており、現在は、学校体育スポーツ局の自立的な普及体制の確立を目標として、15 州への普及と普及システムの構築に取り組んでいる。 一方、中学校体育に関しては、未だ整備が遅れており、小学校で体系的な体育の授業を受けた子ども達が中学校に進むとまた一貫性のない体育の授業に戻ってしまうのが現状である。また、中学校体育科教育は、学校体育スポーツ局に加え、国立体育・スポーツ研究所もかかわるため、制度的な整理と役割の明確化、人材育成が引き続き必要である。カンボジアでは自国開催が決定している 2023 年の東南アジア競技大会（SEA ゲーム）に政策の重点を置いている中、小学校・中学校の一貫した体育科教育を確立していくことは、国家政策的に見ても必要性は高い。	
活動概要 - 本年度は 2015 年 11 月より事業を開始し、3 月までに以下の活動を実施した。 - 鹿屋体育大学の佐藤豊教授を招聘しての指導要領記載要綱ワークショップの実施（2015 年 11 月 2 日～4 日）。 - 教育省の独自予算により、カンボジア全 25 州 43 名の教育局担当官が参加 - 指導要領記載に向けた各関係局の役割、スケジュール等の策定 - シンガポールの体育科教育システムの調査（2015 年 11 月 19 日～21 日） - 国立教育研究所（NIE）の施設視察 - ナンヤン技術大学の川端専門家との協議 - シンガポール教育省関係者との協議 - タイの体育科教育システムの調査（2016 年 1 月 24 日～28 日） - 基礎教育委員会（教育省内組織）との協議 2 教員養成機関（国立体育研究所、スリナカリンウィロット大学）の視察及び協議 4 中学校（スリナカリンウィロット大学附属中学校、スワンクラブ中学校、ディワングコーンウィッタヤパット中学校、スリアユタヤ中学校）の訪問、学校システムについての協議 - バットアンバン州での指導要領ドラフトを使用したワークショップの実施（2016 年 2 月 16 日～20 日） - バットアンバン州教育局担当官 2 名、体育教員 16 校・計 29 名が参加 - サッカー、バレーボール、バスケットボールの 3 種目の指導要領ドラフトを使用しての試験授業及びグループディスカッション - 中学校体育科教育の目的、種目を決めるための検討ワークショップの実施（2016 年 3 月 1～2 日） - 中学校体育科教育の中で育てるべき児童の教育学的要素、内容の検討 - 教育学的要素を教えるための種目の選定	
次年度の実施計画 - 指導要領ドラフトの継続作成 - バットアンバン州、スヴァイリエン州及びプノンペン市での各 2 回の指導要領ドラフトの試行実施ワークショップ - 指導要領内容を見直すレビューワークショップの実施（2回） - プノンペン市での指導要領執筆ワークショップ - 各州の教育局や体育教員を招聘し指導要領ドラフト最終版を利用したコンサルテーション・ミーティングの開催 - 指導要領認定セレモニー	
支援・協力団体 文部科学省、日本スポーツ振興センター	



指導要領記載要綱ワークショップ



タイ調査、スリナカリンウィロット大学での協議



バットアンバン州での指導要領ドラフトを使用したバスケットボールの授業

事業名	日本語教育事業
事業分類	被災地、紛争地における自立・復興支援事業
活動理由 (1) HG 日本語教室 (チェイ小学校内) HG が活動を始めた 1999 年頃は、チェイ地区は貧しい地区の一つで、子ども達の将来のために日本語を教えてほしいという要望が多く寄せられた。 カンボジア国民の多数を占める農家では子どもを手放さざるを得ない貧しい家庭が多く、そのような子ども達がホテル、レストラン、ガイドなどの仕事を見つけて自立できるようにするために 2001 年 6 月に日本から松尾睦先生を派遣しチェイ小学校内で日本語教育を始めた。2014 年 1 月に松尾先生の退職に伴い、一時閉鎖していたが、2015 年 1 学期 (11 月) から再開。この学校で日本語を学んだ卒業生のスライノッチが教師となり、生徒も新たにチェイ小の 3 年～6 年の子ども達を募集した。 (2) BBU 大学 (Build Bright University) 子ども達だけでなく、青少年の日本語教育への要望があがり BBU 大学外国語センターにて、日本語講座を 2015 年 10 月に開講した。京都民際日本語学校から派遣された松野泰司先生を中心に、チェイ小学校 HG 日本語学校で日本語を学び 2010 年に岡山学芸館高校に留学したカン・ナモイが講師を務めている。授業時間は 60 分から 90 分。現在は 3 クラスを開講し、BBU の学生だけでなく、他大学の学生も日本語を学んでいる。カンボジアの大学生は、昼間はホテルやレストランで働き、夜、大学に通っている勤労学生が多い。彼らは英語を既に話せるが、もう一つの外国語としての日本語を身に付けることで、幅広い仕事を得る機会や、日本人と交流できる仕事を探している。 (1) (2) とともに HG が行っている日本語教育には、高等教育という理由で助成金・補助金がなく、団体や個人の寄付で活動を行っている。	
活動概要 1. チェイ小学校 HG 日本語教室 人数：22 名／開講日時：月曜～金曜 午前 10 時～11 時／内容：初級 2. BBU 日本語講座 人数と時間：A クラス (13 名) 月曜～木曜 午前 10:45～12:15 B クラス (9 名) 月曜～木曜 午後 5:00～6:00 C クラス (23 名) 月、水、金 午後 5:00～6:00 ・内容：初級～初中級	
教室訪問・物資支援 1月25日、岡山市教育委員会から6名の小中学校の先生達が来訪。2月17日には、大塚倉庫様から8名が来訪された。子ども達の日本語はまだ初級だが、日本人と交流できる数少ないチャンスで、自己紹介をしたり、一緒に折り紙を折ったり、日本のことを聞く時間は、心に残る貴重な時間だった。今後も日本語や日本が好きになる交流を多く持ちたい。日本で集めていただいた文房具、折り紙、絵本楽器などの支援物資をいただいた。	
卒業生 (チェイ小学校内日本語教室) チェイ小学校の日本語教室で学んだ生徒達は卒業後、日本語ガイド、看護師、日本語教師、地元企業、レストラン、旅行会社など、それぞれ自立して頑張っている。また、卒業生のうち2名 (スライノッチ、ナモイ) がHGのスタッフとして、NCCGと日本語教室で働いている。人材育成事業は時間がかかるが、カンボジア人によるカンボジアの発展を応援したい。	
今後の活動 BBU では、初級クラスだけでなく、中・上級クラスや日本語検定試験対策講座、少人数でのグループレッスンなどを開講し、幅広いニーズに応えていくとともに、日系企業への就職支援や日本への留学支援も手掛けていきたい。	
支援・協力団体 一家成明&理恵、岡山学芸館高校・清秀中学校、岡山外語学院、岡山市立建部中学校、HG チャリティディナー実行委員会、倉敷平成ライオンズクラブ	



BBU の日本語講座 (松野先生)

事業名	ハート・ペアレント事業 <ニュー・チャイルド・ケア・センター(NCCC)>
事業分類	被災地、紛争地における自立・復興支援事業
NCCCの意義 孤児、あるいは孤児に準ずる子ども(両親、親戚が養育できない状態に陥った子ども)が、安心して生活できる環境の下で養育を受け自立できるよう物心両面から支援し、良き市民としてカンボジアを担っていく人材を育成する。 入所者：20名(2016年3月31日現在)	
校外教育 ・日本語教育:10月から週4日(月、火、水、金)HG日本語教室にて、6名が日本語を学習し、4名がアシスタントとして授業のサポートをした。 ・英語教育:11月まで週4日(月～木)二つのレベルに分かれて17名が学習。 ・アプサラダンス(クメール伝統舞踊):毎週日曜日の午前に2時間練習。センター訪問者に、習った踊りを披露している。 ・絵画教室:月2回(隔週の土曜日午後)「小さな美術スクール」(主宰者・笠原知子先生)で、絵画教室(油絵やアクリル絵)に参加。毎年、ウォーキングイベントのTシャツは子ども達の絵で作成。シェムリアップ市内の絵画展に出展。また、日本でのチャリティディナーにも出品した。	
図書コーナーの利用と歯科治療 昨年、大部屋の中に図書コーナーを設置し、定期的に朝の読書会を開催して本に親しんでいる。また、昨年に引き続き、12月にTAO東洋医学研究会の医師の方々に、歯科治療と虫歯予防教育を実施していただいた。昨年始まったこの活動によって、子ども達には毎日2回の歯磨きの習慣が根つき始め、虫歯が多かった歯の状態も少しずつ改善している。	
サラチュガニ(おいしい教室)の開催 昨年に引き続き、チェイ村の主婦を対象に健康のための教室「おいしい教室」(保健・栄養・料理)を開催した。料理教室はシェムリアップ市内のレストランのシェフによるカンボジア料理、日本人シェフによる創作料理を学び、栄養バランスのとれた食事の作り方についても学んだ。保健教室ではソッキイア看護師による健康についての学習。また、普段は運動をすることのない主婦にHGインターンの米山さんがエアロビクス教室を開いた。日本からのスタッフによる美容教室も好評だった。	
畑での野菜の収穫と鶏の飼育 畑では継続的に野菜が収穫できている。季節に応じて、トウモロコシ、空芯菜、オクラ、カボチャ、じゃがいもなどを育て、子ども達の食事の材料にしている。鶏も飼い始めた。鶏の世話や農作業は子ども達も楽しんで取り組んでいる。	
日本との交流 岡山学芸館高校、清秀中学校の生徒、岡山大学の学生、岡山市教育委員会の先生、ハート・ペアレントの方々、HGスタディツアーの方など多くの日本人がNCCCを訪れ、継続した交流をしている。また本年も、年間を通じて、岡山の小学校との手紙の交換のほか、スカイプで顔を見ながら話をすることによって、お互いが身近に感じられ、双方の子ども達にとっていい体験ができている。留学中のサオピアもスカイプで時々子ども達と交流している。	
卒業生の動向 一昨年高校を卒業したソチアットが、2016年3月で日本国際協力財団(JICF)の支援による研修を終え、晴れて研修先の日系旅行会社への就職が決まった。企業でのインターンシップを経験して成長し、積極的に仕事に取り組むようになった。将来は英語・日本語ガイドになりたいという夢を持った彼のさらなる成長に期待したい。 サオピアは日本での3年間の留学を終えて、3月に無事、専門学校を卒業、国家試験に合格して美容師免許を取得した。	
支援・協力団体 ハート・ペアレント、高野山真言宗南真会、スタディツアー参加者、TAO 東洋医学研究会、翌檜、岡山せとうちライオンズクラブ、協力小・中・高・大学、HG 長岡クラブ、(公財)日本国際協力財団(JICF)	



事業名	子どもの健康増進・疾病予防（浄水器の設置）
事業分類	被災地、紛争地における自立・復興支援事業
設置場所（２ヶ所）： (1) プノンサンパブ小学校 バッタンバン州バッタンバン市（児童数 649 人、教員数 37 人） (2) クラコー小学校 クラチエ州クラチエ市（児童数 390 人、教員数 31 人）	
プロジェクト実施期間： (1) 2015 年 9 月～12 月 (2) 2015 年 11 月～2016 年 3 月	
設置の目的と設置後の効果： 多くのカンボジアの学校には井戸があり、その水をトイレや手洗い用に利用しているが飲用には適しておらず、都会の学校に敷設されている水道水も同様に、日本のような飲用可能な水ではない。そこで、井戸水や水道水を浄化・殺菌することで、子ども達に安全な水を思う存分に飲んでもらいたいという想いから、昨年に引き続き、今年も小学校体育の研究指定校の２校に浄水器（アメリカ製）を設置することとした。 小学校の子ども達は、これまでは家から水筒に水を入れて持ってくるか、売店で売っているペットボトルの水を買うしかなかったが、浄水器が設置された現在では、思う存分に水飲み場で水を飲めるようになった。HGが進めている体育教育の普及にも、運動の後にいつでも水が飲めることはとても役立っている。	
小学校での浄水器設置に至るまで： 水飲み場のある学校はほぼ無く、工事の担当者も作ったことがない。そこで、過去に既設の水飲み場の写真や図面を見せながら要望を伝え、依頼する。作業前の心配は杞憂で、日本と同様の立派な水飲み場が完成する。また、水飲み場から流れ出る排水を貯める貯水池を掘り、子どもが落ちたりするのを防ぐ蓋で覆いをする。浄水器の設置については、協力団体であるNGO SPLASH（本部はアメリカ）の専門家がプノンペンから現場にやって来て設置を完了させる。浄水器に流し込む水は水道水であるが、いずれも水源からパイプを敷設して浄水器につなぎ、流し込んだ原水を浄水器で処理した後、更にパイプで繋いだ水飲み場や台所に送り清潔な水が子ども達に届く、という仕組みとなっている。設置後、水飲み場の水は、HGが水質試験場に持ち込んで検査を行い、間違いなく飲用可能な水であることを確認している。	
浄水器の利用者： 小学校の児童や先生だけでなく、近隣住民にも水飲み場を開放し、自由に水を汲めるようにしている学校もある。今までよりも安全な水を、今までよりも安く入手できるため、住民からの評判も上々である。学校によっては、無償で水を提供しているところもあれば、電気代などの運用費用としてわずかな寄付金を集めている学校もある。	
浄水器の保守： HGは、設置から５年間、定期交換用の部品と修理サービスを各校に提供する予定。また、浄水器のフィルターを清潔に保つには毎日の保守が必要であり、学校毎に２～３人ずつ担当教員を選んでもらい、フィルターの洗浄方法の研修を実施。研修を受けた先生達が、毎日フィルターをチェックし、汚れがあれば洗浄して、常に安全な水が提供されるように管理している。	
今後の設置予定： HGでは、体育の普及活動とあわせて、浄水器や水飲み場の設置を今後も進めていく予定。	
支援・協力団体： 大光電機㈱、藤沢ロータリークラブ、NGO SPLASH	



事業名	自立のための職業訓練
事業分類	被災地、紛争地における自立・復興支援事業
支援対象	New Child Care Center (NCCC) HG 日本語教室

活動理由

カンボジアでは、義務教育を卒業しただけでは働ける場所が少なく、なかなか自立が困難である。HG では日本語教室や養護施設を運営して子ども達の自立に向けての支援を続けている。日本語を習得した中から 2007 年から毎年一人ずつ岡山学芸館高校の協力で留学。親や家がない NCCC(養護施設)の子ども達は手に職を付けなければ自立して生きていくことができないため、自立手段としての職業訓練が必要となる。

活動概要

バン・サオピア(NCCC 出身)は、本人の強い希望と受け入れ先があったことで日本に留学。2013 年(1 年目)岡山学芸館外国語学校で日本語を学びながら、カモン R で美容師の研修を始めた。翌年 4 月からは専門学校岡山ビューティーモード(OBM)に入学。夢であった美容師の勉強を本格的に始めた。難しい漢字を使つての勉強は大変であったが、本人の努力と多くの方々のご支援で 2 年間の勉強を終え、3 月に卒業し、3 月末に美容師免許証(国家資格)を晴れて手にした。

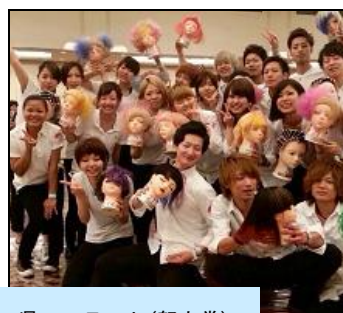
1 年目【2013. 4～2014. 3】



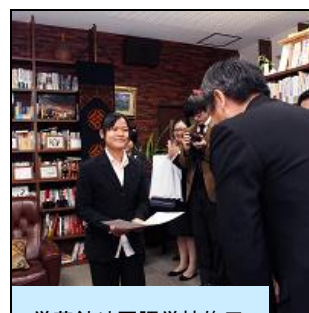
日本にきました



20 歳の誕生日



県コンテスト(努力賞)



学芸館外国語学校修了

2 年目【2014. 4～2015. 3】



OBM 合格



カモン R で研修



OBM 文化祭



カモン R チャリティカット

3 年目【2015. 4～2016. 3】



OBM カット実技



OBM ブライダル実習



有森代表のブロー

岡山学芸館高校への留学生のその後

チュン・スライミーは、ツアー会社に就職。ソン・ソッキイアは、HG の奨学金で 3 年間、カンボジア国内の看護学校で学び、現在はアンコール小児病院で看護師を。ゲェ・チョンパーは、むつみ日本語教室の日本語教師。カン・ナモイは、高校卒業後に現地 NGO を経て、現在は HG の日本語教室で日本語教師。テン・ワンダーは、日系企業に就職。チュート・スライノッチは、岡山県のパログラムで養護施設での 4 ヶ月の研修の後、NCCC のスタッフに。ラエム・セラーは、高校卒業後、レストランのコック、ルット・スンナラーは日本語教師として働いている。

HG は、今後もカンボジア人によるカンボジアの発展を目指して、人材育成に取り組むたい。

支援・協力団体

岡山学芸館外国語学校、カモン R、留学里親、専門学校岡山ビューティーモード(OBM)、高野山真言宗南真会、高野山真言宗千光寺、HG 飯田クラブ、チャリティーディナー実行委員会、

事業名	3.11 子ども animo プロジェクト
事業分類	被災地、紛争地における自立・復興支援事業
支援対象	3.11 被災小学校（宮城県・福島県）

活動理由

2011.3.11 に起こった未曾有の東日本大震災に対して、HG石巻クラブとHG福島クラブと連携して、継続的支援を実施している。緊急支援から復興支援に移り、仮設や間借りから新改築した学校もあるが、現地に行ってみると、まだまだ道のりは遠いように感じる。明日を担う子ども達と、それを支える現場の先生達が元気になるよう、「3.11 子ども animo プロジェクト」を、今年も進めた。

活動概要

【東松島市立野蒜^{のびる}小学校】

継続活動として、要請に応じて全校校外学習のための交通費（バス代）と全校 QU テスト(学校生活意欲や満足度の診断)の費用、卒業アルバム代を支援した。

学校からは、折々の子ども達の様子(運動会、プール教室、全校持久走大会、希望コンサート、卒業式など)の報告をいただいた。

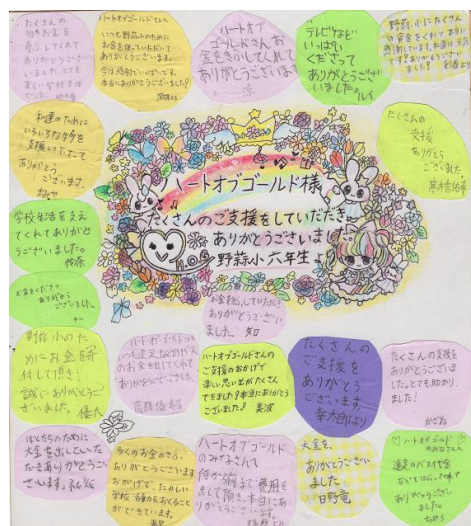
2016 年 2 月 27 日をもって、142 年の歴史を閉じ、宮戸小学校と統合し「^{みやのもり}宮野森小学校」として新しくスタートした。2016 年 12 月には高台に新しい校舎が完成する。

【石巻市立渡波^{わたのは}小学校】

^{わたのは}渡波小学校の木村先生からは、^{わたのは}渡波小学校通信が送られてきて、元気に育っている子ども達の様子がよくわかる。



＜野蒜小学校の運動会＞



＜野蒜小学校からのお礼の色紙＞



がれきを使った作品展(渡波小学校)
＜ワタノハスマイル＞



渡波小学校学芸会（木村学級の音楽会）

次年度の実施計画

- ・HG石巻クラブ、HG福島クラブと協力して学校の復興支援継続
- ・^{みやのもり}宮野森小学校の新校舎と山下第 2 小学校、雄勝小・中統合学校などに、太陽光街路灯の設置を JS ファウンデーションと協働で計画

支援・協力団体

日本警察・消防スポーツ連盟、淀川国際ハーフマラソン、チャリティーディナー実行委員会、一家明成・恵理、HG福島クラブ、HG石巻クラブ

事業名	カンボジアでのフィールド・スタディによる国際貢献人材育成 “カンボラ”
事業分類	国際理解・交流事業
協働団体	岡山大学

活動概要

【期間】 2015 年 10 月 1 日～2016 年 2 月 29 日 （現地活動：12 月 20 日～29 日、活動報告会：2/21）

【参加学生】 岡山大学教育学部 12 名、岡山大学院教育学研究科 1 名

【現地活動場所】 ＊現地集合・解散 （バットンバン） 運動会実施 4 小学校
（シェムリアップ） チェイ小学校、ニュー・チャイルド・ケア・センター（NCCC）

【内容】 本事業では、グローバルな視点に加え、国際貢献の素養も併せ持った人材を育成することを目的とし、当該補助金の対象となる岡山県内の大学生に国際協力の現場での実体験の機会を提供した。具体的には、参加型と企画型の 2 つのプロジェクトに分け、参加型では課題解決、企画型では学生自らが課題形成を行い、プロジェクトを企画・実施することとした。学生募集の結果、岡大の学生で定員となった。指導者は、岡山大学教育学部養護教育の上村氏と山内氏に務めていただけたこととなり、運動会については、同保健体育の原氏に担当していただいた。

11 月から本格的な活動を始めた。参加型プロジェクトは、(1)運動会の運営補助（運営そのものではなく「参加者が楽しめる運動会」）、(2)浄水器設置校での保健衛生指導の課題に取り組んだ。企画型プロジェクトでは、現地では道具や場所が準備できなかったり、日本の小中学生への取り組みと同じであったりなど、実施困難と思われる案も多く出ていたが、指導者や HG 側と協議を進めるなかで、目的を明確、かつシンプルにしていくことで、次第に内容が絞られていった。カンボジアの歴史や文化についての学習も行った。HG 顧問である同大学の小川氏の講義では、カンボジアの内戦やその後の日本の関わりについて、自身の経験も交えてお話いただいた。「国際貢献」、「ボランティア」という言葉が、日本の多くの人に認識されるきっかけとなった“カンボジア”。そこで活動することの意味を十分理解して行ってほしい」という言葉に、学生の意識も大きく変化した。

現地活動では、教育省体育教育担当者 (NT) や HG 職員とともに運動会の練習サポートをし、得点板の作成やグラウンド清掃・整備などは先生や児童と一緒にいった。通訳がない場面でも英語で意志疎通を図り、日毎に積極的な関わりができるようになっていった。25、26 日の運動会は各校とも大成功を収めた。25 日にはブノンサンパブ小学校で低学年の児童を対象に、手作り紙芝居での説明後、薬品とブラックライトを使って手の汚れの確認と手洗い指導を行った。



シェムリアップ移動後は、各グループが企画準備した活動を子ども達と一緒にいった。チェイ小学校は理科実験（ペットボトルロケット）とサイベース。NCCC では T シャツアート、スタンプ作り、ダンス、ボディパーカッション、料理。



全体として交流活動となったが、子ども達にとっては楽しい思い出となり、参加学生には、気付きの多い、「支援」についてより深く考える

機会となった。

2 月 21 日には、報告会とワークショップを開催し、また、各プロジェクトと個人の報告書も作成し、本活動の総括を行った。現地運動会や報告会・ワークショップに、岡山大学の学長や教職員が参加するなど、大学としても本活動を評価していることがうかがえる。

岡山県「岡山発国際貢献活動推進事業」

事業名	サービスラーニング（ESD=持続可能な開発のための教育）事業
事業分類	国際理解・交流事業
支援対象	小・中・高校・大学・HG 日本語教室、New Child Care Center (NCCC)、HG 日本語教室
活動概要：学校が取り組んでいる総合的な学習や、国際理解教育、ボランティア教育などに協力する。 子ども達が、世界の現状（貧困・環境・平和など）に目を向け、グローバルな視点から、国際理解（異文化理解）を深めると共に、自分理解の助けとなるような活動とする。学習方法は、講演、IT 機器による交流（メール、スカイプなどを利用）、ビデオ、文通、カボジアの留学生・研修生などの話を聞く、現地を訪問するなど、様々な手段を利用。そして交流したなかで、異文化理解や持続可能な開発などについて考え、自らの生活を見直し、自分達の可能性と力に目覚め、進んで社会のために活動できる人材を育成する。 1) 出前授業 18 回の出前授業を実施（代表、HG 本部スタッフ、東南アジア事務所スタッフ、日本語教師、留学生）。実際に活動している人から話を聞くことにより、現地を理解し、自分たちでもできる活動を考える。 岡山市立平福小学校 岡山市立西大寺小学校 岡山市立第 3 藤田小学校 岡山市立野谷小学校 岡山市立政田小学校 岡山市立西小学校 岡山市立曾根小学校 岡山市伊島小学校 岡山市立建部中学校 岡山市立京山中学校 岡山清秀中学校 岡山学芸館高校 2) 交流 手紙やプレゼントの交換をしたり、ビデオやスカイプでの交流を通して異文化理解を深めた。日本の教室と現地をスカイプで結んで、お互いに歌やスポーツを披露しての交流は、両国の子ども達にとって、直接顔が見え声が聞こえる機会になり、感動的だった。 3) 設備・物資支援（日本の学校からの寄付金はまとめて施設や教材に使用） アンコールウォーキング大会、体育教育研究指定校、運動会などに必要な物資を、日本の協力学校が集め、物資はツアーで持ち込み、必要な所に配付。募金はマット、鉄棒、平均台などとして贈呈。支援物資は、Tシャツ、ワイシャツ、教材、文房具、歯ブラシ、カンダー、石鹸、タオル、遊具など。施設支援は、鉄棒 7 校、マット 8 校に 16 枚、平均台 1 校、ボール多数。 4) 現地受入れ（37 回） 1 月 23 日～30 日に、岡山市教育委員会事務局指導課が主催し小・中学校教員を「ESD に関わるカボジア研修」（政田小・第 3 藤田小・伊島小・曾根小・建部中・指導課）に派遣。交流学校や、ユニセフ・ノンパソ事務所、教育省、教育大学、日本大使館などを訪問し交流。 高校生・大学生、NGO などのスタッフや個人を、カボジアの活動現場に受入れ、国際協力や交流を実施。現地での実体験は日本の学生にとって大きな刺激となり、グローバル人材育成に寄与した。	
成果 年間を通じて途上国に関わることで、貧困、環境、食料、人権、平和などがつながりをもって連関している事を知り、自分たちでできる事があることを実感。また、自分達のおかれた地域に目を向け、持続可能な社会を協力して作ることを考えることができたようになった。自分たちが支援した募金・物資などが、現地に渡され喜ばれ活用されたことを知ることで、活動の継続につながった。中・高校生には将来の進むべき道にも影響を及ぼしたようだ。友人や家族と共に活動して、自分の身のまわりから変えていくことで社会を変えていく喜びを味わった。本年は教育現場の先生方が現地を訪問されたことで、子ども達にグローバルな視点から異文化理解・国際協力が広がることを期待したい。	
今後の計画 現地スタッフやカボジア人などができる範囲で学校訪問をして、直接顔の見える交流の機会を増やす。学校が取り組む「ESD/持続可能な開発のための教育」に協力して、実践を通して子ども達が地球規模で未来を考え、社会性が育つ活動を進めたい。 日本の青少年を活動現場で受け入れて（インターンやボランティアとして）、体験を通しての成長を育みたい。	
助成・協力団体 岡山 ESD 推進協議会、協力小・中・高校・大学、岡山清秀中学校、岡山学芸館高校、岡山市立第 3 藤田・曾根・野谷・政田・西・平福小学校、岡山市立御津・建部中学校、岡山市教育委員会事務局指導課、東京都立光が丘春の風小学校、順天中・高校飛鳥会、岡山大学、個人支援者、㈱RIGHTS	



スカイプ交流は楽しい



日本からの支援物資



岡山市の先生による
長縄跳びの授業

2016 年度 事業計画書 (2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)

特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド

1 事業実施の方針

被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困層の人々に対して、スポーツや教育、その他の活動を通じて自立につながる事業を行い、苦境に立ち向かう人々や子ども達が人生にチャレンジするための「希望と勇気」を持つことが出来る機会創造に寄与することを目的とする。特に、途上国の人々が自分達のかかえる問題を自らの力で解決していけることを目指し、彼らの視点に立って、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業分類	事業名	事業内容	実施日	実施場所
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	・アンコールワット国際ハーフマラソン後援	・主催者であるカンボジアオリンピック委員会、陸上競技連盟の自立運営を見守りつつ、有志が参加し第 21 回大会を共に盛り上げる	12/4	カンボジア(シェムリアップ)
	・スポーツイベント ・チャリティイベント	・国内のチャリティマラソン・スポーツイベントなどの実施協力 ・チャリティイベントの主催・後援・協力など開催協力	4 月～ 3 月	日本
スポーツを通じた開発支援事業	・小学校体育科教育振興(JICA 草の根技術協力事業) ・小学校体育普及支援(岡山市(CLAIR)補助金事業) ・中学校体育科教育指導要領作成支援事業(SFT 再委託事業) ・中学校体育科教育指導書作成・普及事業(JICA 草の根技術協力事業) ・スポーツ施設設置・建築	・カンボジア小学校体育科教育普及第 3 フェーズ(9 月まで)を、カンボジア教育省と協働で実施。担当官 12 名の育成、地方での新体育普及体制確立のための活動を実施。本年度は 4 地域で評価、7 月に最終コンサルテーション・ミーティングを実施し、教育省大臣に提言書を提出予定 ・カンボジア教育省主導の運動会の開催を目的とした指導技術の確立(担当官の日本での研修、現地体育実技講習会) ・中学校体育科教育の指導要領作成を継続、12 月に認定取得予定 ・中学校体育科教育の指導書作成及び普及支援開始予定 ・体育科教育実施の学校に必要なスポーツ施設を設置・建設	4 月～ 3 月	カンボジア
障がい者支援事業	・障がい者スポーツの振興 ・日本の大会へ招聘	・障がい者スポーツ(陸上)人材育成、システム構築支援 ・障がい者ランナーの日本のマラソン大会への招聘	4 月～ 3 月	カンボジア
被災地、紛争地における自立・復興支援事業	・日本語教育	・BBU 大学内での日本語講座(青少年への日本語教育を拡大) ・チェイ小学校での日本語教室 ・日本からのツアーの受入れと交流	4 月～ 3 月	カンボジア(シェムリアップ)
	・養護施設(NCCC)運営	・ハート・オブ・ゴールド(里親制度)で孤児や貧困児童を受入れ養育する。 ・ローカルスタッフの人材育成 ・日本の学校との交流		カンボジア
	・子どもの健康増進・疾病予防	・学校に浄水器を設置することにより、安全な水を提供し、子ども達の疾病予防、健康増進に寄与する ・昨年のチェイ小学校全校虫歯検診を受けて虫歯予防のための歯みがき指導		宮城県 福島県 熊本県
	・3.11 子ども animo プロジェクト ・4.14 子ども animo プロジェクト	・被災学校の支援(太陽光街路灯)及び被災学校との交流の推進。 ・熊本地震の支援を、日本警察・消防スポーツ連盟と協働で実施		
国際理解・交流事業	・スタディツアー ・青少年交流	・国際協力の現場見学とボランティア体験や交流により貧困・環境・平和・開発などについて理解を深める。 ・企画ツアーを実施(活動参加型ツアーを計画) ・学生や団体のスタディツアー受入れ(中学・高校・大学・団体など)	4 月～ 3 月	カンボジア
	・サービスマーケティング(学校教育支援) ・持続可能な開発のための教育/岡山型 ESD 推進事業協力 ・研修・啓発・講演会 ・インターン受入れ(国内外)	・学校や団体に講師を派遣 ・スカイプや文通、メールによる現場との交流・情報提供。国際協力、交流などの実践的学習活動の場を学校に提供。 ・国際協力等のシンポジウムやパネル展、講演会などを開催、講師派遣 ・インターンの受入れ。	4 月～ 3 月	日本 カンボジア
その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	・出版/調査/研究など ・通信・ネット・機関誌での啓発活動	・学会発表、調査研究、シンポジウム、会議などへの参加 ・ホームページ改訂、記録映像の保存、「HG 通信」年 2 回発行 ・HG 20 周年記念誌準備	4 月～ 3 月	日本 カンボジア

(2) その他の事業

定款の事業分類	事業名	事業内容	実施日	実施場所
バザーその他物品販売事業	チャリティバザーの実施やグッズ販売・パネル展示	Tシャツ、キャップ、書籍などの販売やパネル展示を通して活動支援金を広く集める。併せて、活動内容の広報を行うとともに、国内での活動支援者層の拡大を図る。各地域で開催されるイベントへの参加。	随時	日本